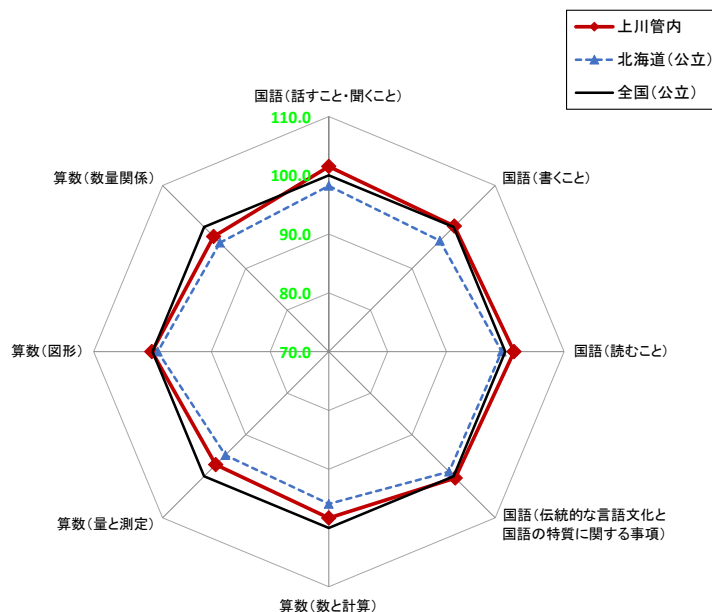


■ 小学校の状況(学校数:113校、児童数:3,559人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの

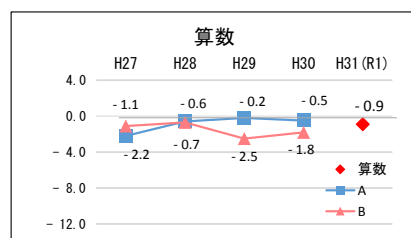
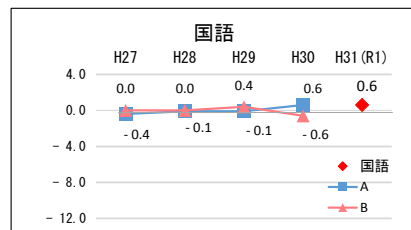
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

	国語	算数
上川	64[64.4]	66[65.7]
全国	64[63.8]	67[66.6]

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

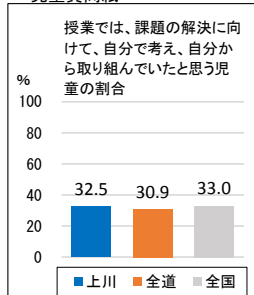


※「管内の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の経年変化

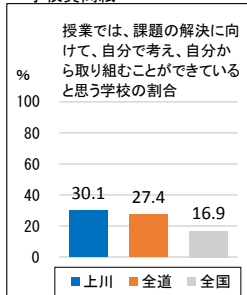
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

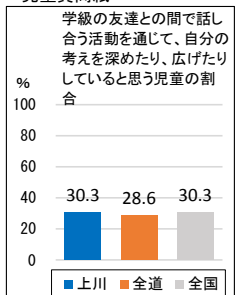
* 児童質問紙



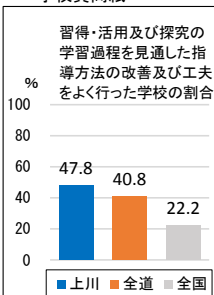
* 学校質問紙



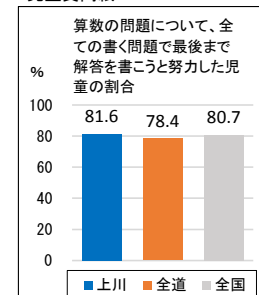
* 児童質問紙



* 学校質問紙

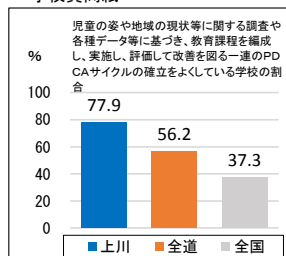


* 児童質問紙

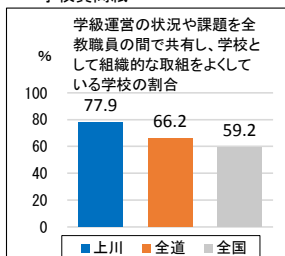


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

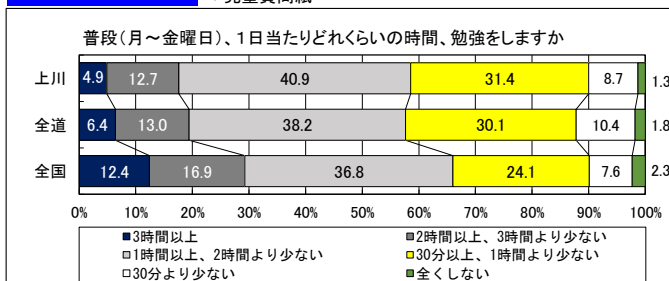


* 学校質問紙



学習習慣

* 児童質問紙



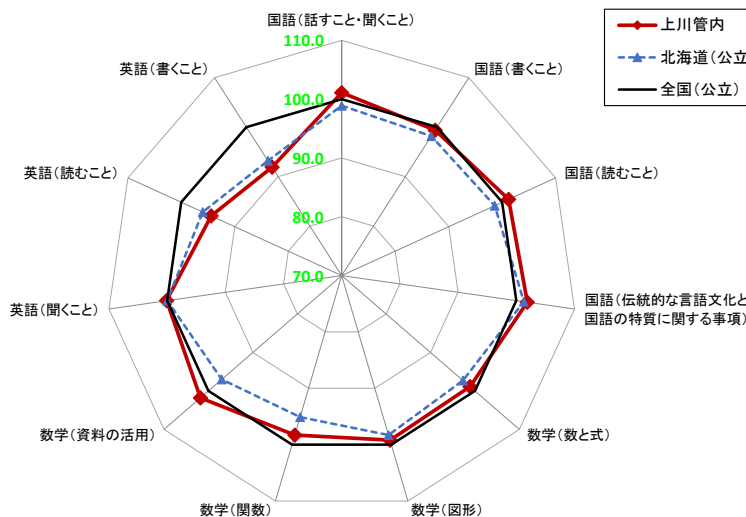
【分析及び改善の方向性】

分析	○ 学校として組織的な取組をよくしている学校の割合が、全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、学校評価等の積極的な活用による重点教育目標の具体化、教育課題の明確化など、組織的・計画的な学校改善のより一層の推進が課題である。 ○ PDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合が、全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、全ての教職員による検証改善サイクルの確立及びカリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善・充実に向けたより一層の取組が課題である。 ○ 指導方法の改善及び工夫をよく行った学校の割合が、全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む体制整備及び目的や意図を明確にした話し合い活動、ICTの効果的な活用などのより一層の授業改善が課題である。
改善の方向性	○ 学校経営訪問及び学校教育指導訪問等による管理職及びミドルリーダーへの組織的・計画的な学校改善に向けた継続的な指導助言を行う必要がある。 ○ 組織力強化会議等、研修成果の普及や還元による組織的なカリキュラム・マネジメントの確立及び教育活動の質の向上を図る必要がある。 ○ 学校教育指導訪問や公開研究会における特設授業の研究協議を通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての指導助言及び「授業改善推進チーム活用事業」や「課題解決型授業(主体的・対話的で深い学び)」に関する調査研究プロジェクトにおける指定校の優れた実践成果の普及による授業改善の推進を行う必要がある。

■ 中学校の状況(学校数:62校、生徒数:3,641人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものの
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

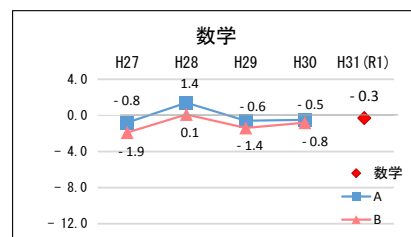
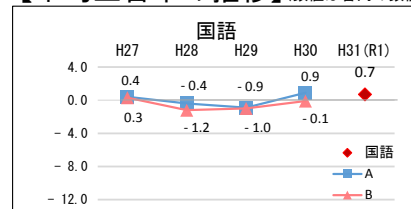


【平均正答率】

	国語	数学	英語
上川	74[73.5]	60[59.5]	54[53.7]
全国	73[72.8]	60[59.8]	56[56.0]

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

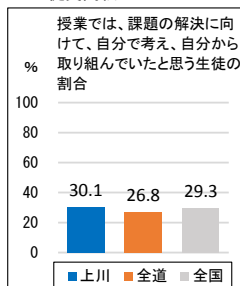


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

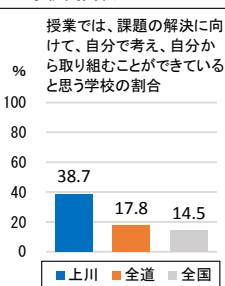
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

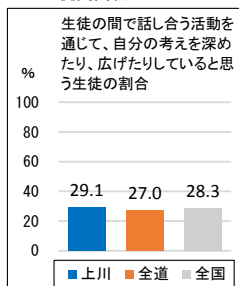
* 生徒質問紙



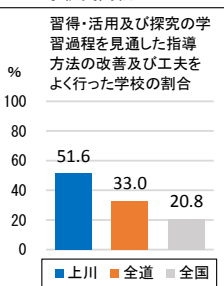
* 学校質問紙



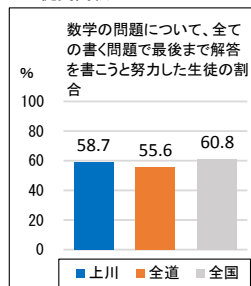
* 生徒質問紙



* 学校質問紙

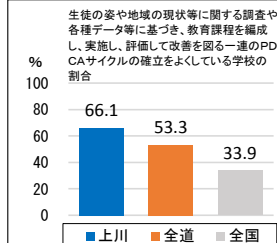


* 生徒質問紙

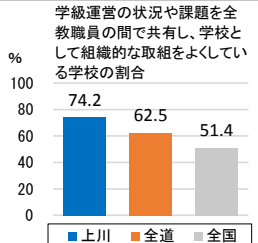


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

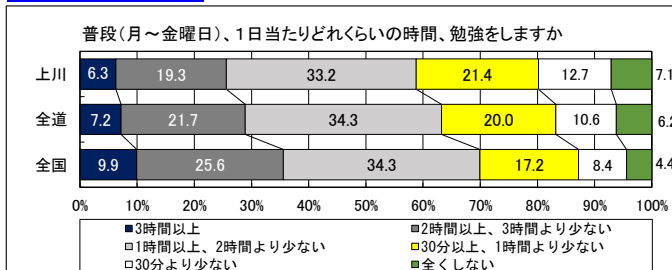


* 学校質問紙



学習習慣

* 生徒質問紙



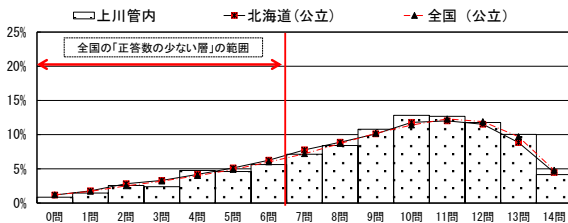
【分析及び改善の方向性】

分析	○ 学校として組織的な取組をよくしている学校の割合が、全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、学校評価等の積極的な活用による重点教育目標の具体化、教育課題の明確化など、組織的・計画的な学校改善のより一層の推進が課題である。 ○ PDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合が全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、全ての教職員による検証改善サイクルの確立及びカリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善・充実に向けたより一層の取組が課題である。 ○ 指導方法の改善及び工夫をよく行った学校の割合が、全国を上回っているものの、全ての学校の取組となっていない状況があり、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む体制整備及び目的や意図を明確にした話し合い活動、ICTの効果的な活用などのより一層の授業改善が課題である。
改善の方向性	○ 学校経営訪問及び学校教育指導訪問等による管理職及びミドルリーダーへの組織的・計画的な学校改善に向けた継続的な指導助言を行う必要がある。 ○ 組織力強化会議等、研修成果の普及や還元による組織的なカリキュラム・マネジメントの確立及び教育活動の質の向上を図る必要がある。 ○ 学校教育指導訪問や公開研究会における特設授業の研究協議を通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての指導助言及び「授業改善推進チーム活用事業」や「課題解決型授業(主体的・対話的で深い学び)」に関する調査研究プロジェクトにおける指定校の優れた実践成果の普及による授業改善の推進を行う必要がある。

上川管内

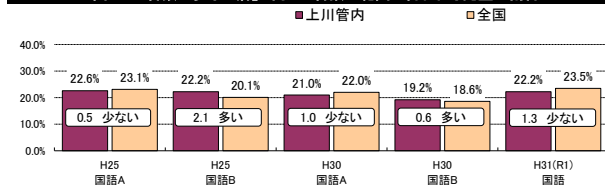
小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
上川管内	3,559	9.0 / 14	64.4	10.0	3.3
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	62.8	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4



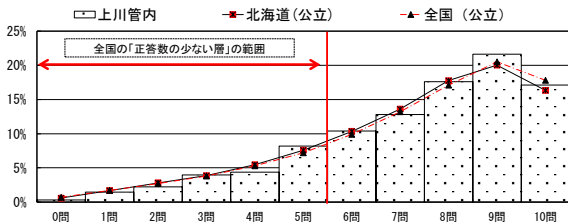
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



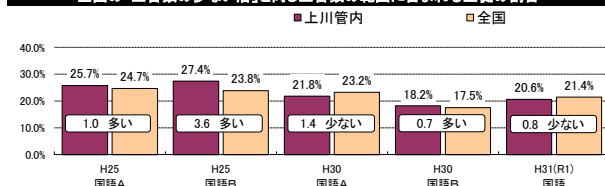
中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
上川管内	3,641	7.3 / 10	73.5	8.0	2.3
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72.1	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4



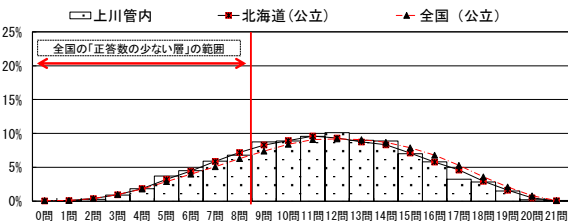
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



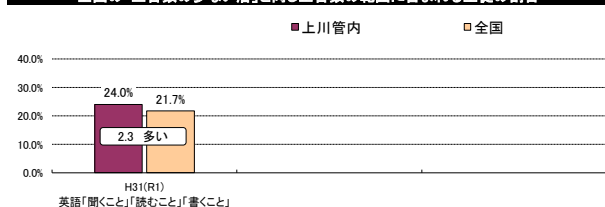
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
上川管内	3,634	11.3 / 21	53.7	11.0	3.7
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54.2	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9



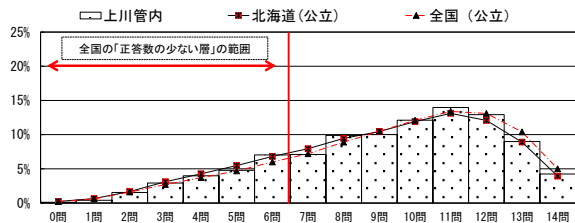
●全国の「正答数の少ない層」は、8問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



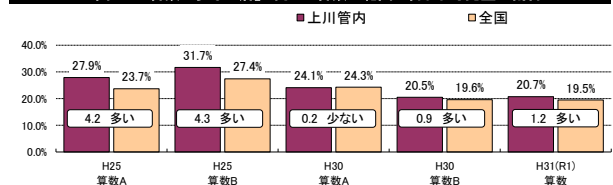
小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
上川管内	3,559	9.2 / 14	65.7	10.0	3.0
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64.5	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1



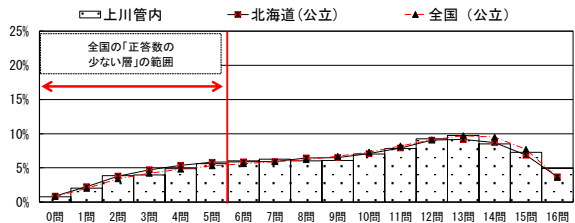
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



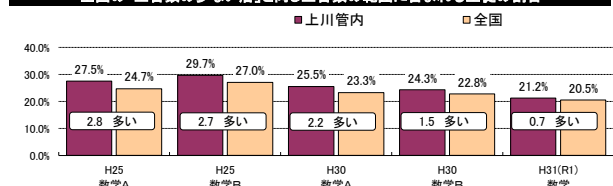
中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
上川管内	3,634	9.5 / 16	59.5	10.0	4.2
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58.1	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2



●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



【参考】【平成28年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

小学校国語A

上川管内	全国
20.7%	21.3%
全国との差 0.6	少ない

小学校国語B

上川管内	全国
29.7%	29.8%
全国との差 0.1	少ない

小学校算数A

上川管内	全国
24.7%	24.2%
全国との差 0.5	多い

小学校算数B

上川管内	全国
20.7%	20.0%
全国との差 0.7	多い